筑後川上流の水事情
（水郷ひたの清流復活をめざして）

NPO法人　ひた水環境ネットワークセンター

① 水郷ひた
② （1988～　）日田の水環境問題と市民活動
③ （1998～2002）水量増加運動
④ （2007～　） 水郷ひた清流復活運動

NPO法人有明海再生機構
筑後川・有明海水共同域を考える市民講座
H29.6.17
エルガーラオフィスビル6F　久留米大学福岡サテライト

①　水郷ひた

筑後川の位置

筑後川と福岡都市圏（福岡導水）

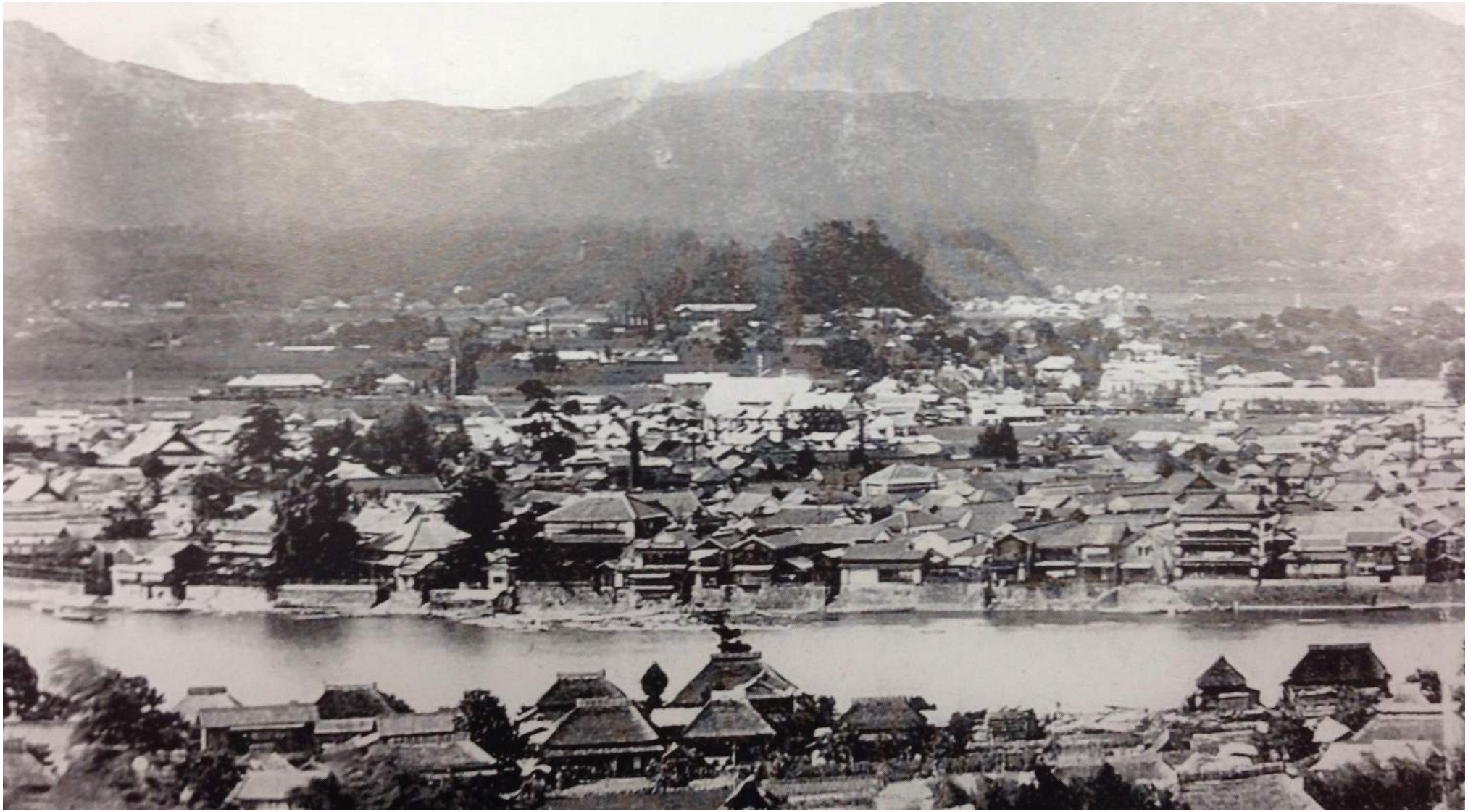
水郷日田（すいきょうひた）

三隈川と日田市街

筑後川で、日田市中心部を流れる区域を三隈川と呼ぶ。

三隈川と日田盆地

1933年（昭和初期）



水運としての川利用
（写真：1930年頃）

① 山で切り出された丸太を川に流し、三隈川中心部で集める。

② 三隈川中心部で集めた丸太を、すぐ側にある製材所で引き上げて製材したり、
③ 丸太のまま筏に組み直し、下流の大川市や有明海まで運んでいた。

① 貸し舟
② 遊船
③ 川下り遊覧船
（写真：1930～1955年）

鮎やな　（写真：1930～1955年）

鮎やな　（写真：1930～1955年）

やなで魚を捕る婦人たち

やなで遊ぶ子ども達

小ヶ瀬井路
（1825年完成）

観光

街中が賑わう「川開き観光祭」をはじめ、川や水に関係するまつりやイベントが多い

② 水環境問題と市民活動
(1988～1998)

水環境問題と市民活動

- 1987　日田青年会議所がまちづくりの為の市民アンケート行い、三隈川や水に関心が高いことが分かった。
- 1988～1991　日田青年会議所が水環境問題に取り組み、「この水を守りたい」をスローガンに
  ① 生活排水、合成洗剤、下水道と高性能合併処理槽
  ② 河川の多自然化、河川利用
  ③ 山林の保水公益的機能、山村の荒廃
  などの市民啓発を行った。
- 1991～1992　永続的に水環境問題に取り組む必要性を感じ、市民組織設立の検討準備を行った。

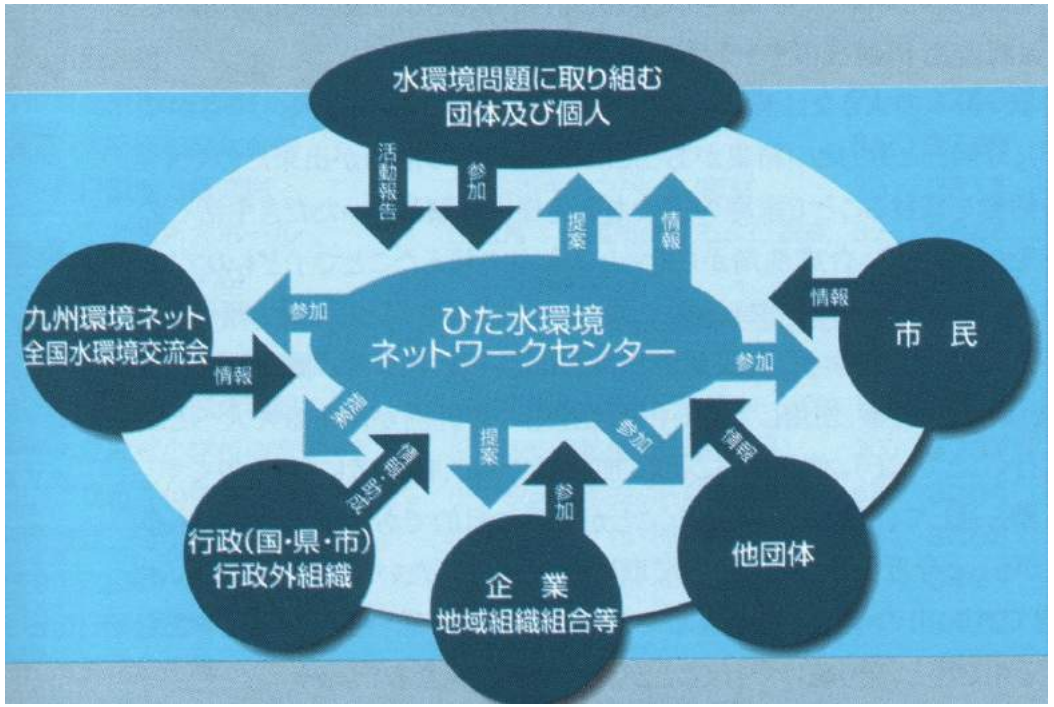
1989　日田で水環境会議

1991　市民との交流会を繰り返し、組織作りの検討

1992・ひた水環境ネットワークセンター設立

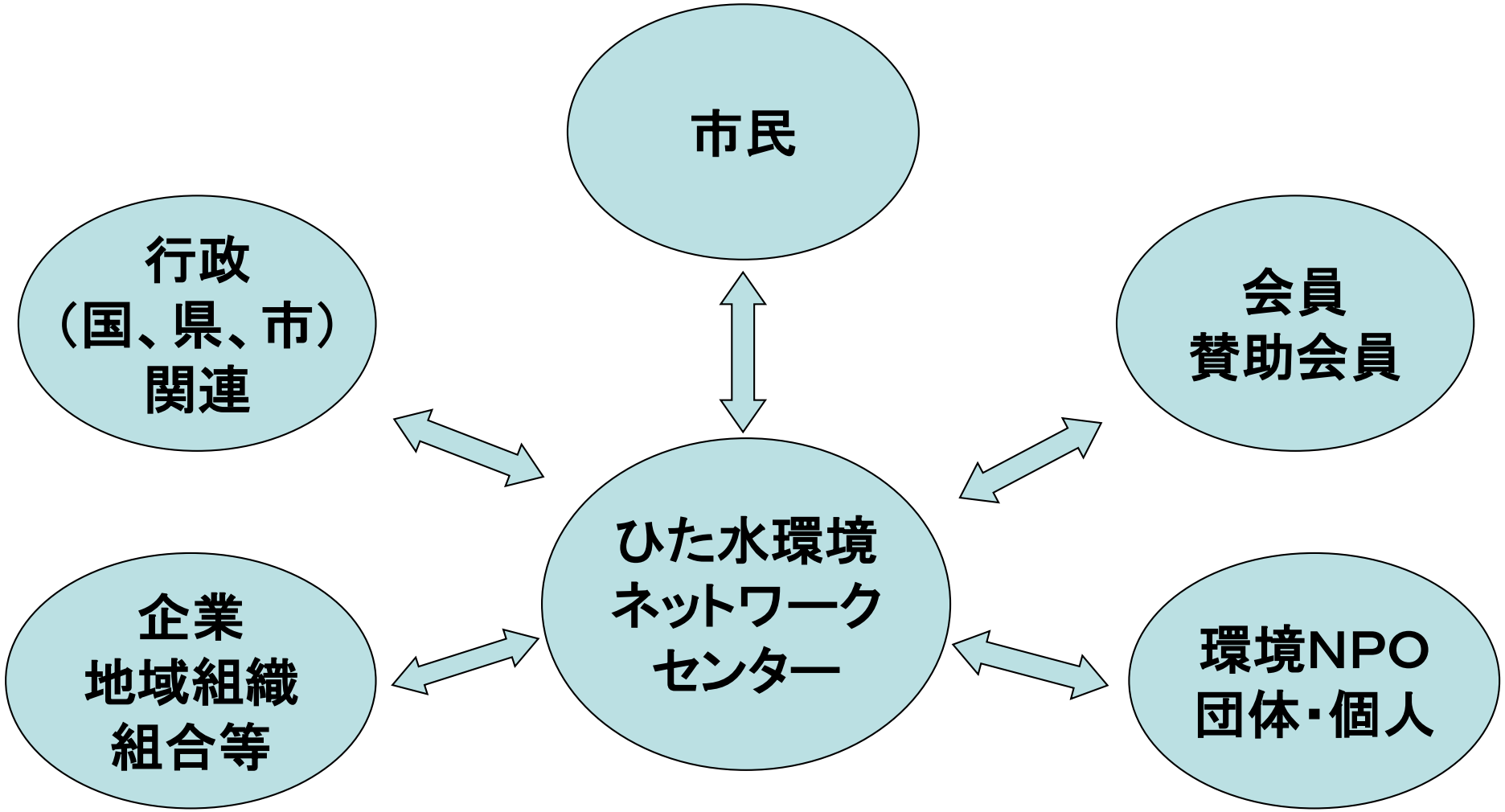
この年、４回にわたる発起人会議を開催し、議論がかわされる。

市内の１２団体が発起人となり
１９９２年１１月１８日に設立



日田市のネットワークの拠点となる

双方向　の　情報･提案･参加



まちづくりの応援団として活動

主な取り組み

リバーフェスタinみくま川

「川がゆうえんちになる日」をテーマに、
毎年2000人以上の子どもや大人たちが遊ぶ楽しい夏のイベント。
何よりも、まず、川で遊ぶ事、楽しい事が大切と、
市内の若者を中心にスタッフも100数十名となり、年々増加中。

●バナナボート・ボート大会・ターザンロープ等々、楽しい催しが盛り沢山。<参加無料>

洗濯キャラバン

合成洗剤の悪影響を知ってもらい、簡単な比較実験を楽しく体験してもらいながら、分かり易く説明。
自然と体にやさしいせっけんの推進を目的に、キャラバン隊は要望に応え、各地をまわり大活躍しています。

●ステッカー、チラシ作製
●ビデオ作製

●最近では、総合学習や女性セミナー等、依頼が急増。

台霧の瀬づくりプロジェクト

平成16年、三隈川河川敷に、子どもたちが安心して遊べる「台霧の瀬」を創りました。地域の子どもたちや市民、団体、学校、行政等の参加のもと、プロジェクトを立ち上げ完成したもので、今後も楽しい川遊びの場として、維持していきます。

水量増加運動

発電用のダム取水により大山川三隈川の水量は著しく減少していた。
平成11年の30年ぶりの水利権の更新時期に、水量を増やし本来の川に近づくよう、また、環境について住民への啓蒙となるよう実行委員会を組織し住民運動とした。その結果、大山川ダムからの放流量は従前の3倍となり、川や環境についての関心も高くなりました。

大山川に潤い"復活"
ダム放流量 3倍増で決着
住民の運動実る

●大分合同新聞2000年3月16日

●「三隈川の水量増加」市民総決起集会
日田市民会館に1,400人が結集。

水環境に関する啓発と連携

会報誌、啓発ポスターの発行、イベントの開催、行政等の関連会議への参加などで、人々の水環境に関する貴重な意見の拡声器となり、日田地域をはじめ、筑後川流域、九州、全国の仲間と連携し、さらに充実した活動になるよう努力しています。

リバーフェスタ

親水事業 「リバーフェスタ in みくま川」 の開催

川遊びを思いきりたのしむ 「川が遊園地になる日」

これまでのおもな活動 2

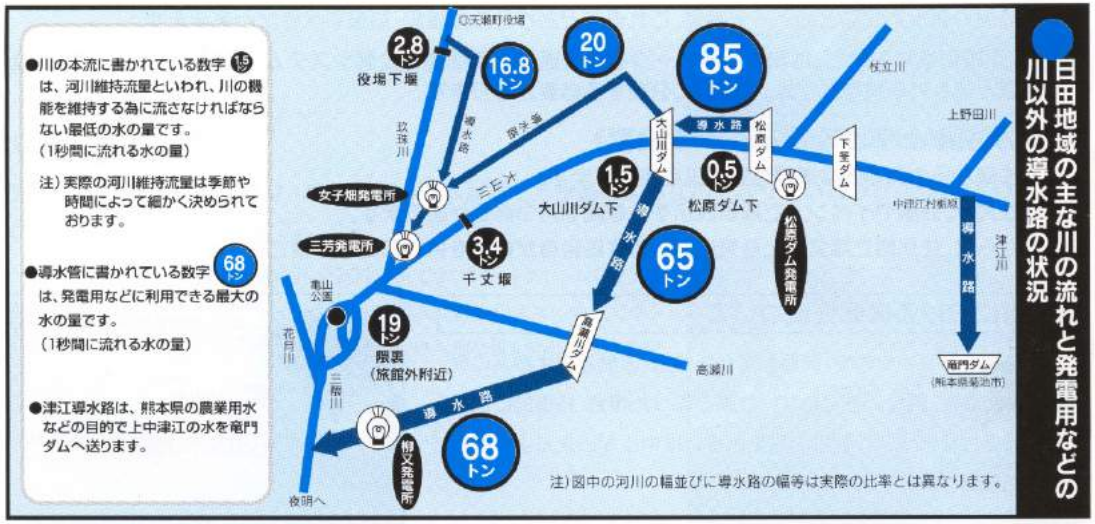
関係写真

1998～・「三隈川の水量増加」推進運動

「私たちの過剰な消費生活を見直そう」

「三隈川に豊かできれいな水をよび戻そう！」

水力発電の為に 水がほとんど
なくなった川を、水量を増やし
自然環境を回復したい。



これまでのおもな活動 4

台霧の瀬づくりプロジェクト

プロジェクトD

プロジェクト前

素堀完了　コンクリートは一切使わない

台霧の瀬　完成

昔の台霧の鮎やな

川の楽校などのイベントや、一般の方が自由に利用している

河川浄化活動として

汚染原因１（ゴミ）

アダプトプログラム（里親制度）による河川のゴミ拾い活動を
イベントに合わせて開催

河川の汚染原因２（排水汚染）

合併前の旧日田市内では、下水道の普及が進んだものの
上流域では、垂れ流しが行われているところがあります。

1994～・洗濯キャラバンが始まる

合成洗剤の環境への悪影響の訴えと、
環境にも人体にもやさしい「せっけん」の推進を、
わかりやすい出前実演として開催

市内各地の婦人会・公民館
での開催が始まった。

2001～・洗濯キャラバン（教育現場へ）

総合学習（授業中）での開催が始まりました。

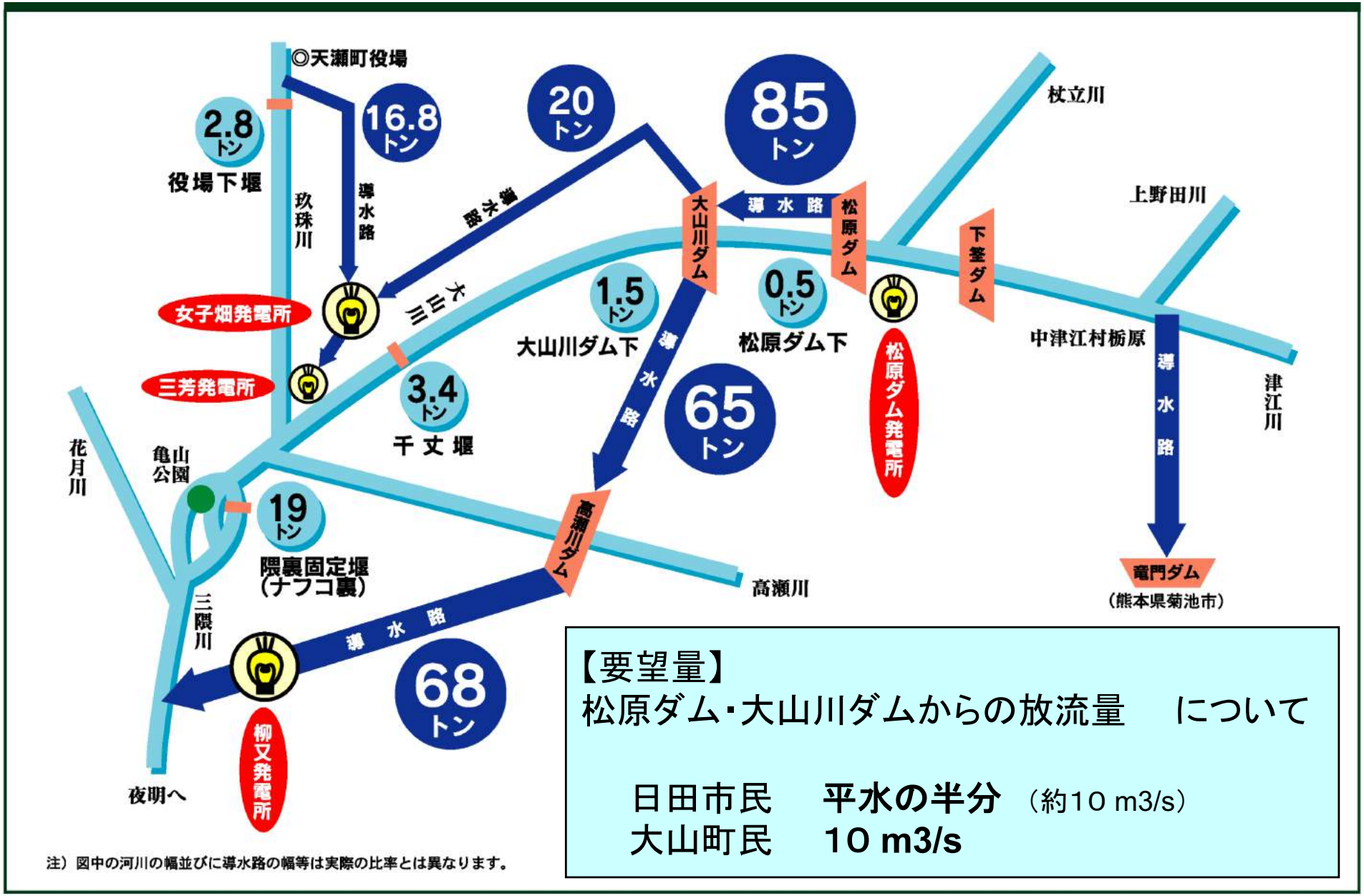
１９９９	大明中学校・育友会（PTA)
２０００	高瀬小学校（　４・５・６年生　）
２００１	咸宜小学校（　５・６年生　）
	石井小学校（　５・６年生　）
	三芳小学校（　６年生　）
	日隈小学校（　６年生　）
２００２	戸山中学校（　１年生　）
２００３	狭間小学校（　５年生　）
	静修小学校（　５・６年生　）
２００４	豊田小学校（　４・５・６年生　）
２００５	狭間小学校（　全校生徒・ＰＴＡ　）

③ 大山川三隈川水量増加運動
(1998～2002)

1998～2002
三隈川大山川の水量増加運動

1999年3月に
松原発電所と柳又発電所の
発電用水利権が
30年ぶりの更新を迎えるにあたって
川の水を増やしてもらうように
大山町と日田市で大々的な住民運動をおこなった。

大山川三隈川の河川維持流量と発電用取水量



注）図中の河川の幅並びに導水路の幅等は実際の比率とは異なります。

【要望量】
松原ダム・大山川ダムからの放流量　について

日田市民　**平水の半分**（約10 m3/s）
大山町民　**10 m3/s**

松原ダム

松原ダム直下　（0．5m^3／秒）

谷を横断する直径5mの導水管
（最大　毎秒65m^3）

水量増加運動は、
環境 と エネルギーの問題

- 川の極端な減水は、自然環境を毀し、景観、生活、産業、文化、生物多様性等地域資源に様々な悪影響を与える。

- 市民は、 平常時の水量（平水）毎秒20m3の 半分毎秒10m3を川に、 半分を水力発電に使うよう要望

- 単なる増量要求でなく、環境とエネルギー問題の啓発運動とし、
  市民に過剰なエネルギー消費の抑制や、水をよごさない生活を呼びかけた。

市民決起集会　1400名

1998年

署名 40681名

市内全世帯回覧、対象人口の75%
国、大分県、日田市、九州電力へ提出

三隈川大山川河川環境協議会

（1999年12月発足）

・目的　　河川環境改善を協議

・協議事項　①減水区間の流量

②水質改善

③河道整備

④その他河川環境の改善

・メンバー　国（河川、ダム）、大分県、日田市、大山町、九州電力、市民、町民、学識経験者

2000. 3. 15　3倍増で決着

住民参加型の先駆けに

三隈川、大山川の流量増加問題

「毎秒最大4.5トンで」決着

九電、苦渋の決断

九州電力柳又発電所（日田市）と松原発電所（大山町）の水利権が三月末、三十一年ぶりに更新されるのに伴い、両市町と住民団体が三隈川と大山川の流量増加を求めている問題で、大山川ダムの放水量を「現在の毎秒・五トンから最大毎秒四・五トンに増量する」ことが決まった。両市町と住民代表、九電、県、建設省の五者による「三隈川・大山川河川環境協議会」（会長・平野宗夫九大名誉教授）で昨年十二月から協議した結果、「水量豊かな川を取り戻したい」という地元の熱意に押され、九電が譲歩した形になった。

■環境浄化の一歩

町の三笘善八郎町長も、ルキー。流量増加は苦しい判断だ」と説明した。

「まちづくりにとって大きなプラス。今後も河川環境の整備に力を入れたい」と強調する。

■両者が歩み寄り

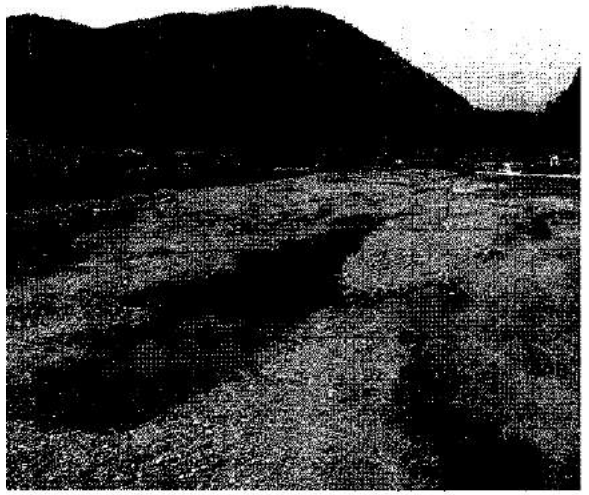
一方、九電側には厳しい決定となった。放水量の増加で柳又発電所の年間発電量は毎時一億八千万キロワットから約一割減る見込みだ。九電の長尾孝彦施設部「川の宿」を建設し観光浮揚を図りたい大山町は貴重な純国産のエネルギー。流量増加は苦し

当初、毎秒十トンを要求する両市町に対し、九電は「発電量を保つために毎秒一・五トンまでしか増やせない」と隔たりがあった。「このままでは決着がつかない」とする県の仲裁案を提示、日田市側が三月上旬、両者に「大同・八トン」とする折衷案を提示、日田市側が三月上旬、両者に「大同・八トン」とする折衷案を提示、日田市側が三月上旬、両者に「大

毎秒十九トンに増量分を上乗せすることが確約され、合意に至った。

地元側が要求より少ない流量で合意したのは、発電所の水利権を一年間延長したとしても、要求が通る保証がない」という焦りもあったからだ。

本来なら、両発電所の水利権は昨年三月末に更新。建設省は両市町の流量増加運動に配慮し、両発電所の水利権を一年間現行通りの内容で延期したため、九電側にも「不



「三隈川・大山川河川環境協議会」で合意した河川流量

朝日新聞（朝刊）　2000年(平成12年)3月16日　木曜日

大山川に潤い〝復活〟

ダム放流量3倍増で決着

河川環境協議会 住民の運動実る

発電用水として取水されている大山川（大山町）と、その下流の三隈川（日田市）の水量問題を協議してきた「三隈川・大山川河川環境協議会」（会長＝平野宗夫九州大学名誉教授）は十五日、夏の観光シーズンに大山ダムの放流量を現在の三倍の毎秒四・五トンに増やすことで合意した。九州電力の水利権が三十年ぶりに更新されるのを機に住民が展開した水量増加運動が実ったもので、河川環境が改善されそうだ。

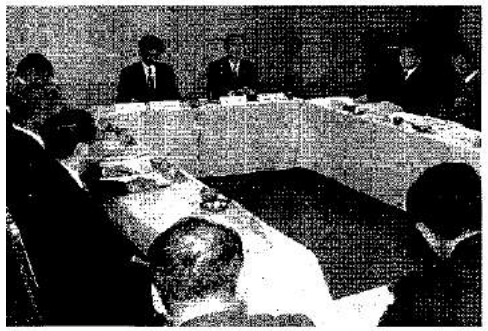
大山川ダムの放流量は一年間、毎秒四・五トンとする。他の期間は〇・三トン増やし一・八トンにすることで合意。三十年を十年に短縮することで、九電と県が譲歩を交換条件に、自然流量の半分に相当する毎秒十トンを求める住民との開きが大きかった。しかし、住民が見直し期間を十年間に短縮する確約がとれたことで双方が歩み寄った。

住民の代表は「建設省などが示した河川維持流量の基準を大幅に超える数字で、全国に波及効果があると思う」と指摘。「川を本来の姿に戻すために、運動を続けたい」としている。

九電は審議結果について「発電量は一割減るが、全国的にも例をみない大幅に短縮する画期的な決着」と評価。「川を愛する住民感情を理解した」としている。

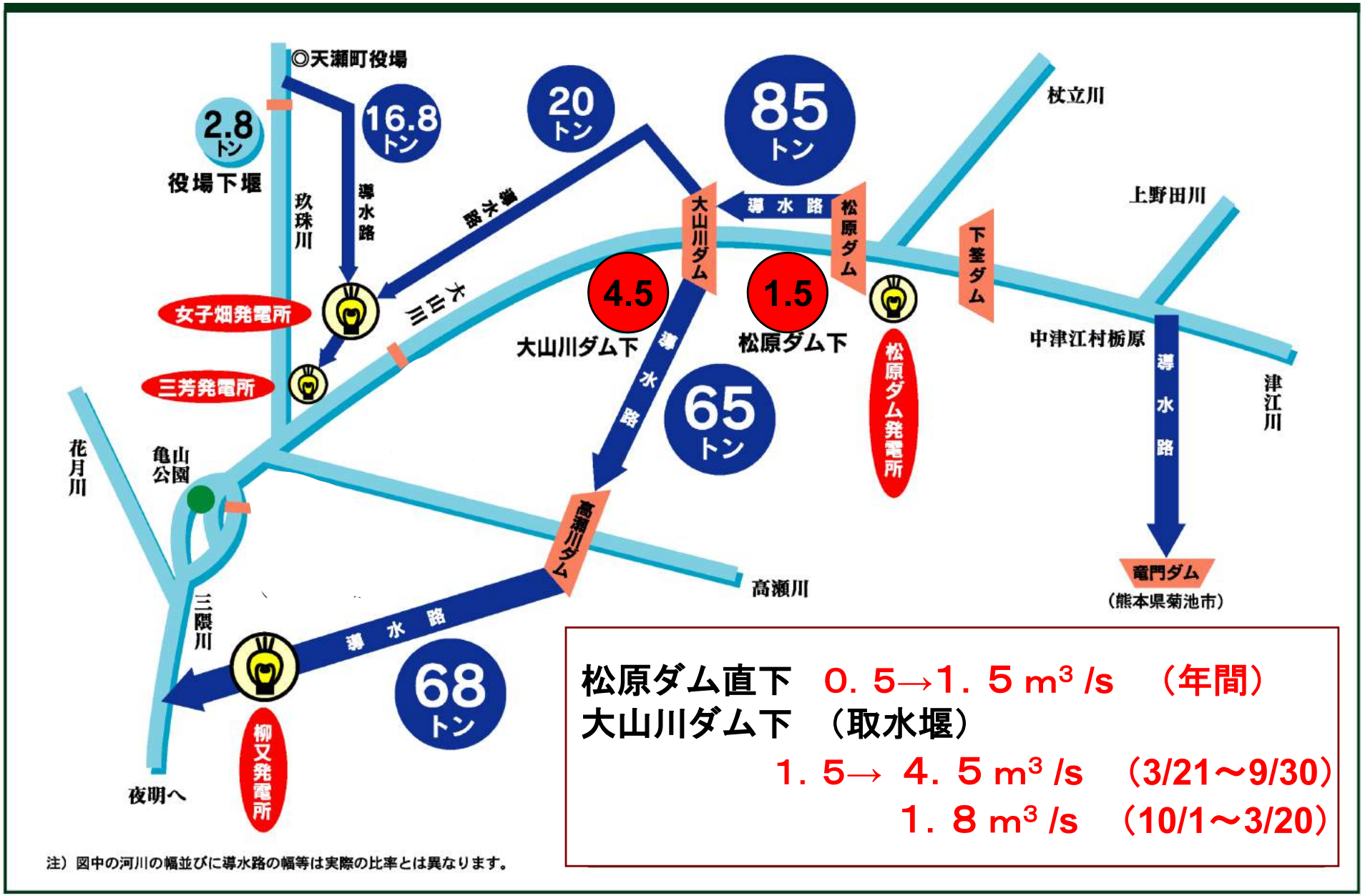
日田市民団体が流量増加を求めてきた運動は、最終的に九電、県、建設省の三者が合意したことで、大山川ダムの放流量は一年間、毎秒四・五トンとする。他の期間は〇・三トン増やし一・八トンにすることで合意。三十年を十年に短縮することで、九電と県が譲歩を交換条件に、自然流量の半分に相当する毎秒十トンを求める住民との開きが大きかった。しかし、住民が見直し期間を十年間に短縮する確約がとれたことで双方が歩み寄った。

ダム発電の取水により現在は水量が少ない大山川。水量問題の決着で夏場は流量が3倍になる



大山川と下流の三隈川の水量問題で合意した河川環境協議会

河川維持流量と発電用取水量
（H12･H13協議結果）



注）図中の河川の幅並びに導水路の幅等は実際の比率とは異なります。

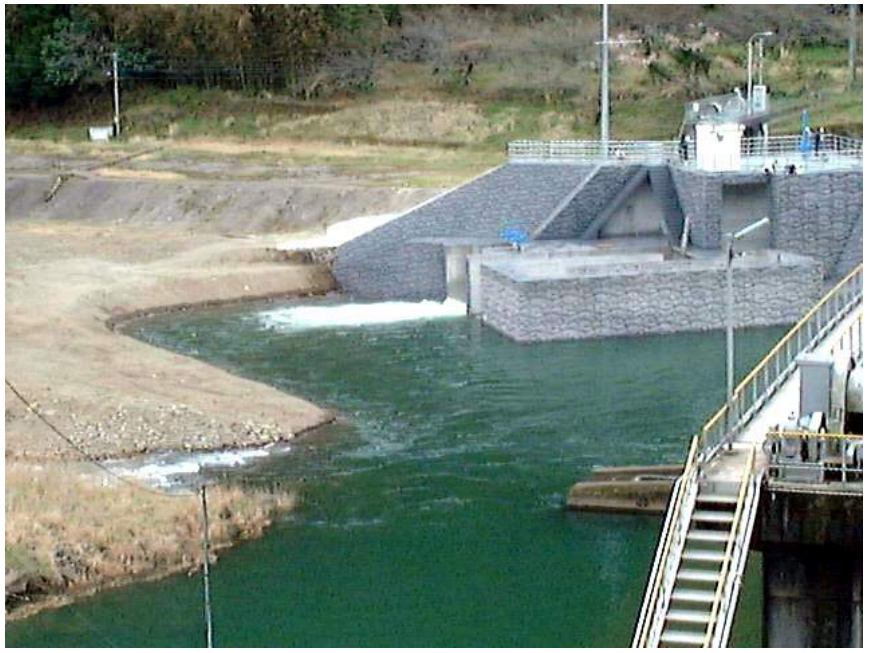
松原ダム直下　0．5→1．5 m³ /s　（年間）
大山川ダム下　（取水堰）
1．5→ 4．5 m³ /s　（3/21～9/30）
1．8 m³ /s　（10/1～3/20）

河川維持流量のガイドライン

- 比流量　　集水面積100km^{2}あたり
  ０．１～０．３　m^3/s／100k㎡
  （全国のほとんどの河川がこの範囲内）

・松原ダム、大山川ダムは
  集水面積　約 500km^2
  大山川ダム維持流量
  １．５　m^3/s　→　４．５　m^3/s
  （ 比流量　０．３　→　０．９ ）

増加前 1．5m³／秒 → 増加後 4．5m³／秒



水量増加後　大山川の鮎　30cm

水量が増えて変わったこと

①　川の状況

- 川が生き返った
- 瀬が復活した
- 川の音が大きくなった
- 景色が少し戻った
- 鮎が大きくなった（尺鮎の復活）
- 水温が落ち着いた
- 石のぬめりが減った　　ほか

水量が増えて変わったこと

②　人への影響（社会的影響）

- 市民や河川関係者に大きな喜びが生まれた
- 市民活動の自信ができた
- 行政や九州電力など河川関係者への信頼が増した
- 水郷ひたの魅力を再認識できた（川、人、文化、気運）
- 日田市民としての自負、誇りが増した
- まちづくり、川づくりに意欲、若者の参加
- 観光、企業誘致など活性化
- 行政施策への理解や参加意欲の増進　　ほか

関係者の合意形成から生まれる運動の実現とその効果

- 川の再生
- 市民の思いの実現、よろこび、水郷ひたの活性化
- 高い評価
- 協議会メンバー全員がヒーロー
- 関係者全員が目的達成とともにメリットを得る

関係者のメリット

- 市民　川の復活、市民要望の実現、自信、
  水郷ひたの活性化‥
- 研究者 研究及び成果、協働、幅広い内容の
  事例、成功例、次の研究材料
- 行政　河川環境の回復、市民要望の達成、
  事業に関する高評価（協働、効果、先見性）、
  信頼、 今後の事業への市民理解協力
- 九電　河川環境の回復、 まちづくり支援、
  生物多様性への先駆的貢献、
  企業への信頼、 高評価

水量以外の合意事項（平成12年）

- **引き続き、協議会を存続させる**

- **必要があれば、10年ごとに維持流量を見直す**

（大分県と九電の覚書）

- 水源涵養林整備

- 環境や利用に配慮した河川整備　ほか

④ 水郷ひた清流復活運動
(2007～2017)

今回の市民活動の方針

①水量増加　大山川ダムからの放流量

$10m^3/s$ （年間、平水の半分）

②水質改善

a. 高瀬川ダム清流バイパス設置

b. 大山ダム（建設中）の水質改善

c. 松原ダム湖の水をきれいにする

③市民啓発

市民による省エネ、環境対策

④関係者協働

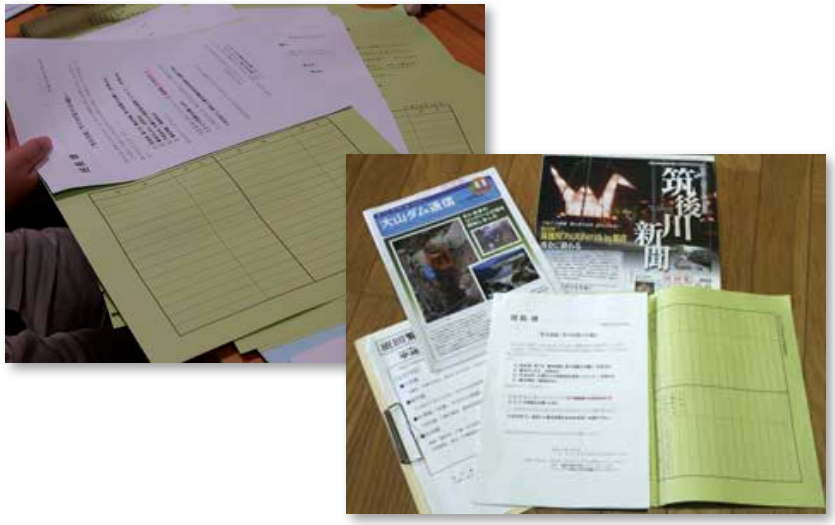
悪者をつくらない。全員がヒーローに

2008年
（平成20年）
～

水郷ひたの清流復活運動が始まる

啓発ステッカーの配布

署名運動



日田市民大会

2008年
（平成20年）
～

水郷ひたの清流復活運動が始まる

2009年6月：シンポジウム

■朗読　　中條響子（女優：劇団若獅子）
事実自然～大山川・三隈川の清流とともに村人が失ったもの～
■基調講演：【テーマ】流量の変化が河川に及ぼす影響
矢野真一郎（九州大学大学院准教授）
■パネルディスカッション：
【テーマ】三隈川・大山川の河川環境再生に向けて
コーディネーター：荒牧軍治（前佐賀大学教授）
パネラー：小松利夫（九州大学大学院教授）
大矢野栄治（久留米大学経済学部教授）
清野聡子（東京大学大学院助教）

2010年1月：市民報告会

■ビデオ報告
・清流復活運動の内容、経過　・水質改善、水量増加、市民活動の状況報告
・清流復活運動のめざすもの
■パネルディスカッション
「 清流復活運動の今 」～求める水量水質、めざす水郷ひたの未来とは～
コーディネーター　荒牧　軍　治（佐賀大学名誉教授）
パネリスト　小松　利　光（九州大学大学院教授）
大矢野　栄　次（久留米大学経済学部教授）
清野　聡　子（九州大学大学院准教授）
佐藤　陽　一（日田市長）

運動による これまでの成果

●大山川三隈川の水量増加
●10年毎の水量協議
●大山川再生計画の実施
●日田の川づくり計画の実施
●上流ダム湖畔林の整備
●松原ダム湖のばっ気装置の増設
●大山ダム　流入水バイパス
●稚鮎放流前のダム統管によるフラッシュ放流

水量協議の状況

三隈川・大山川河川環境協議会　委員

- 学識者
- 九州電力
- 水郷ひた再生委員会
- NPO法人 大山水環境アスリート
- NPO法人
  ひた水環境ネットワークセンター
- 国交省　九州地方整備局
  筑後川河川事務所
- 国交省　九州地方整備局
  筑後川ダム統合管理事務所
- 水資源機構　大山ダム建設所
- 大分県
- 日田市

水量協議の場での考え方

過去にとらわれず、
現在の社会的感覚により、
大山川の実力を評価し、
環境やエネルギーのことに配慮し、
適正な水量を検討したい（荒牧座長）

大山川フラッシュ放流試験について

大山川取水堰

毎秒
1．8
m3

毎秒
4．5
m3

毎秒
10
m3

毎秒
20
m3

毎秒
30
m3

毎秒
40
m3

2011年
（平成23年）
9･10月

大山川フラッシュ放流試験 （中央大橋）

①放流量：毎秒 1.8㎥　撮影日：H23.10.4
現在の契約での毎年 10/1 ～ 3/20 の水量

②放流量：毎秒 4.5㎥　撮影日：H23.9.25
現在の契約での毎年 3/21 ～ 9/30 の水量

③放流量：毎秒 10㎥　撮影日：H23.9.26
日田市民が求めている水量（平水④の半分）

④放流量：毎秒 20㎥　撮影日：H23.9.29
ダムが無いときの平常の水量（平水）

⑤放流量：毎秒 30㎥　撮影日：H23.10.3
ダムが無いときの少し多めの平常水量

⑥放流量：毎秒 40㎥　撮影日：H23.10.6
ダムがないときの平常の 2 倍の水量

水量増加、水質改善等
清流復活の要望事項

水郷ひたの清流復活運動は

三隈川の清流復活を願う市民の思いを受け、自治会連合会、商工会議所、観光協会、NPOなど各種団体を中心に「水郷ひた再生委員会」が創られた。
関係機関に働きかけを行うとともに、省エネルギー、節水、水を汚さない等の市民啓発を行っている。

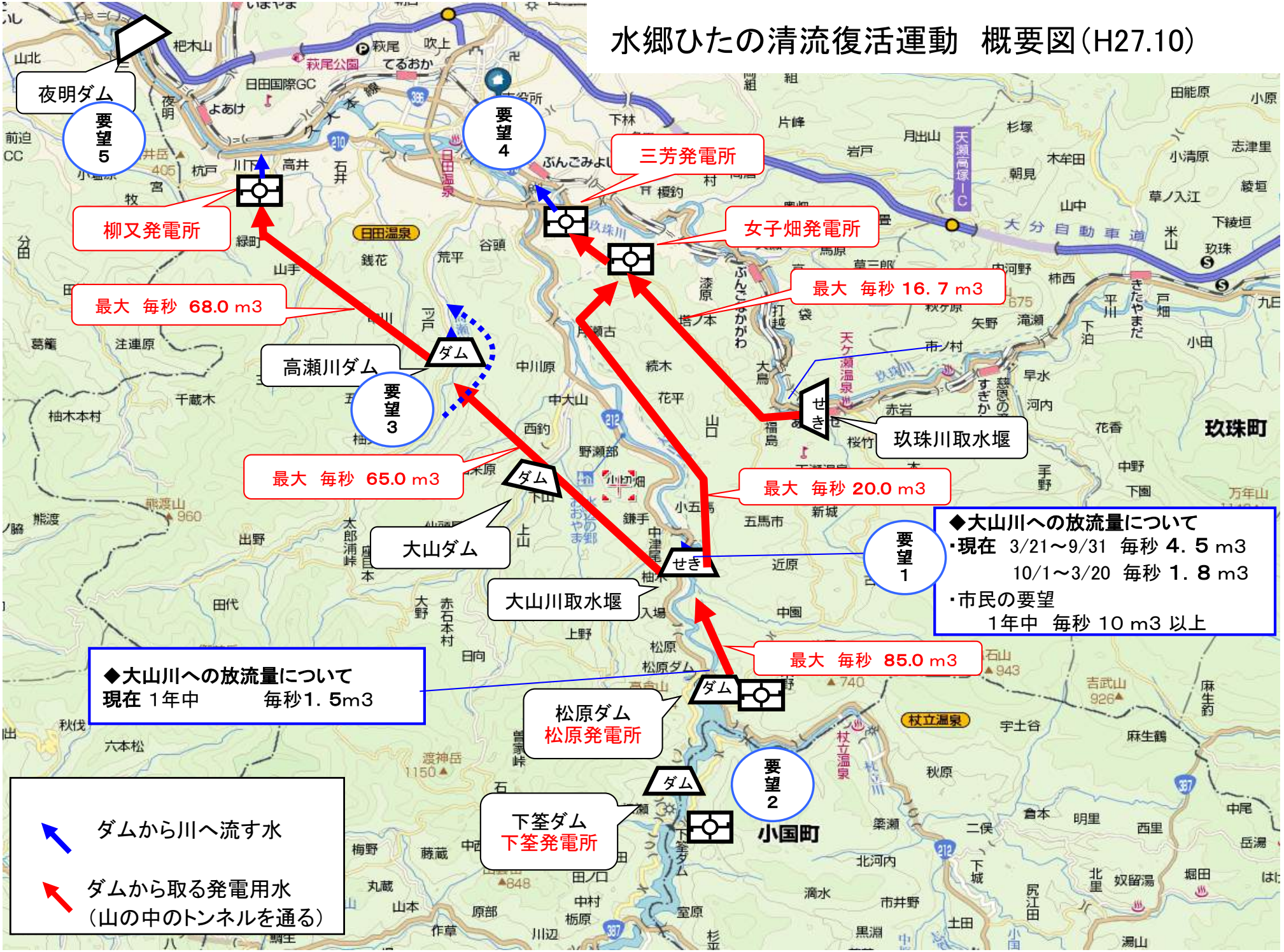
要望1	大山川の水量増加
要望2	大山川の水質改善対策
要望3	高瀬川の水質改善対策
要望4	三隈川隈裏湛水域の水質改善および利用活性化対策
要望5	夜明ダム地点での魚類回遊対策

その他の課題

- 市内河川の水質改善対策
- 森林整備促進策の強化
- 庄手川全域の多自然化
- 小水力発電・イベント等、河川利用に関しての河川管理者の協力
- 竜門ダム津江導水路の熊本側への漏水流出対策

など

水郷ひたの清流復活運動　概要図(H27.10)



水量増加、水質改善等清流復活の要望事項

要望１　大山川の水量増加

①　大山川ダム堰から、通年 毎秒10m3の大山川への放流

H25現在（10/1~3/10）

H25現在（3/11~9/30）

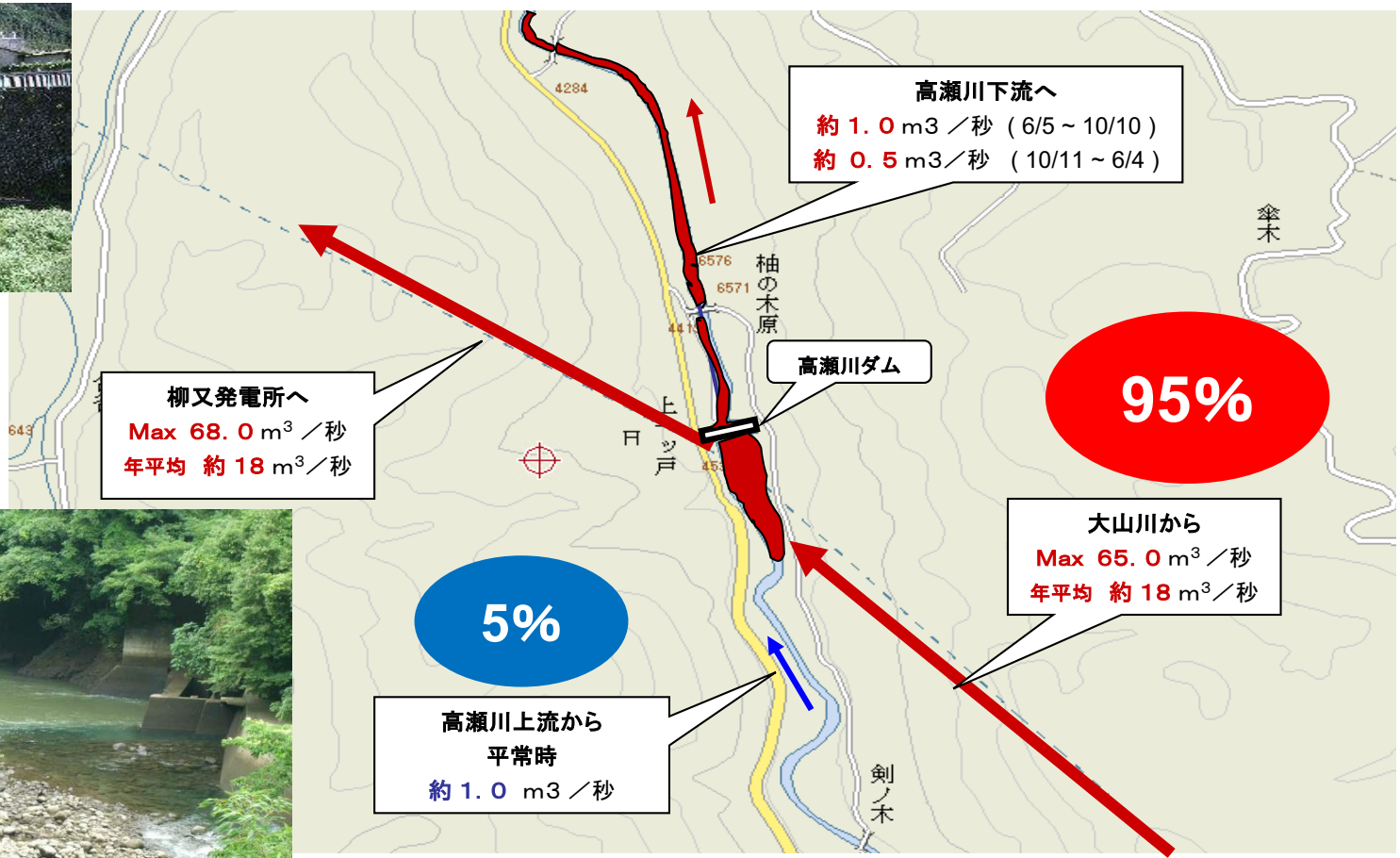
要望量

要望2　大山川の水質改善対策

① 松原ダム湖、下筌ダム湖のばっ気装置増設その他の水質改善策の検討実施。
② 上流域の下水道(温泉排水も含めて)、合併処理槽の普及ほか、最新の水質浄化方法による生活排水、産業排水等、流入水改善策の検討実施。
③ 必要以上に貯水することから発生する水質の悪化を少なくするために下筌、松原ダム操作規則の見直しを検討実施。
④ 松原ダム選択取水設備の改良、下筌ダムには新設

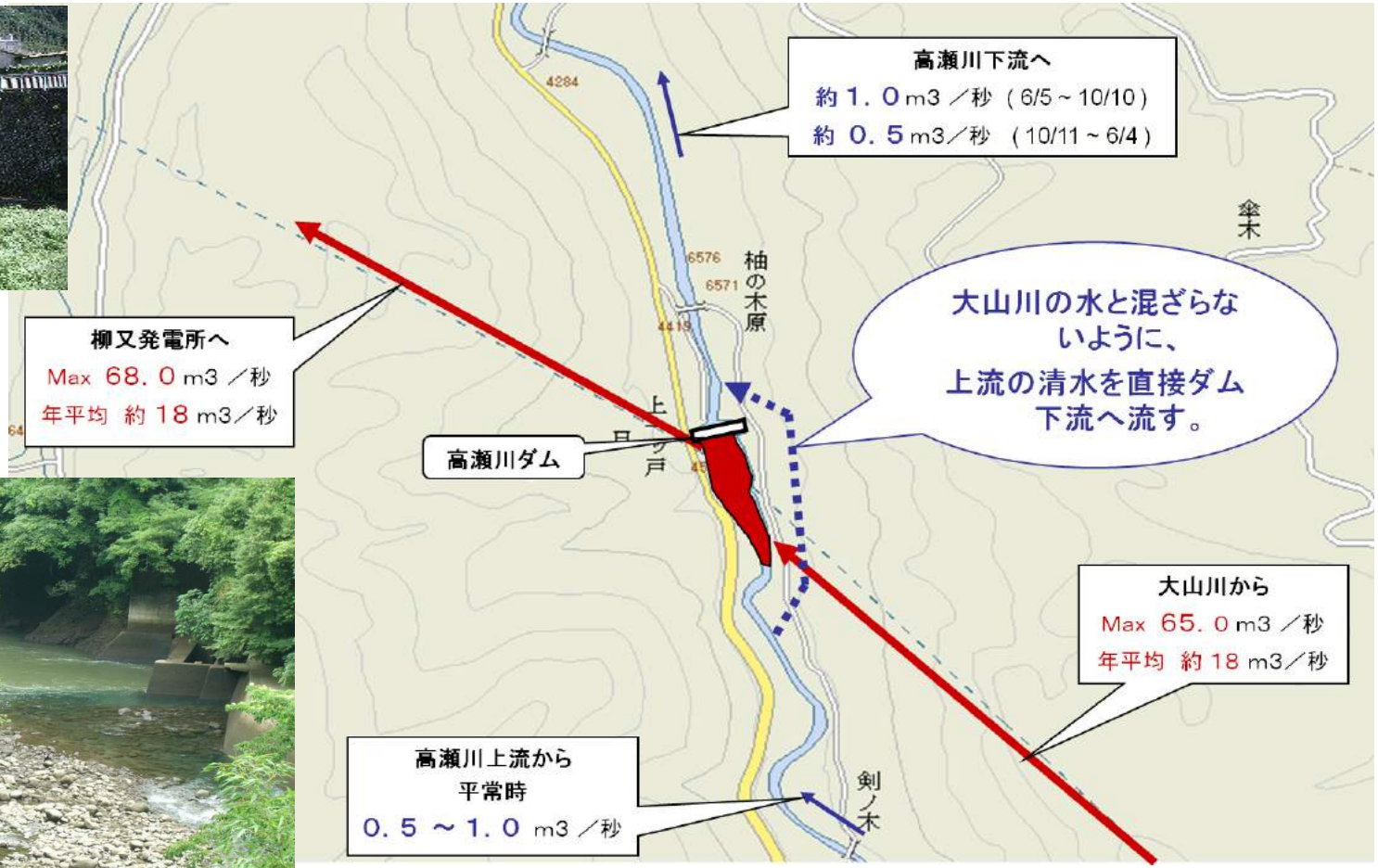
要望3　高瀬川の水質改善対策

高瀬川ダムの清流バイパス設置



要望3　高瀬川の水質改善対策

①　高瀬川ダムの清流バイパス設置
又は、柳又発電所への導水路直結および高瀬川ダムの撤去



高瀬川上流の清流と、大山川からの水が合流する。

普段の高瀬川

高瀬川下流 （琴平町バイパス下）

柳又発電所の補修工事のため
一時的に自流だけになり
下流まで本来の清流に戻った高瀬川
(H26.11～H27.2)

ダム上流は
いつでも美しい

要望4　三隈川隈裏湛水域の水質改善・利用活性化対策

① 固定堰の改修、水流改善、3川分派の見直し等の検討実施
② 湛水域の透明度の改善　（目標：銭渕橋から川底が見える）

②　三隈川の泡

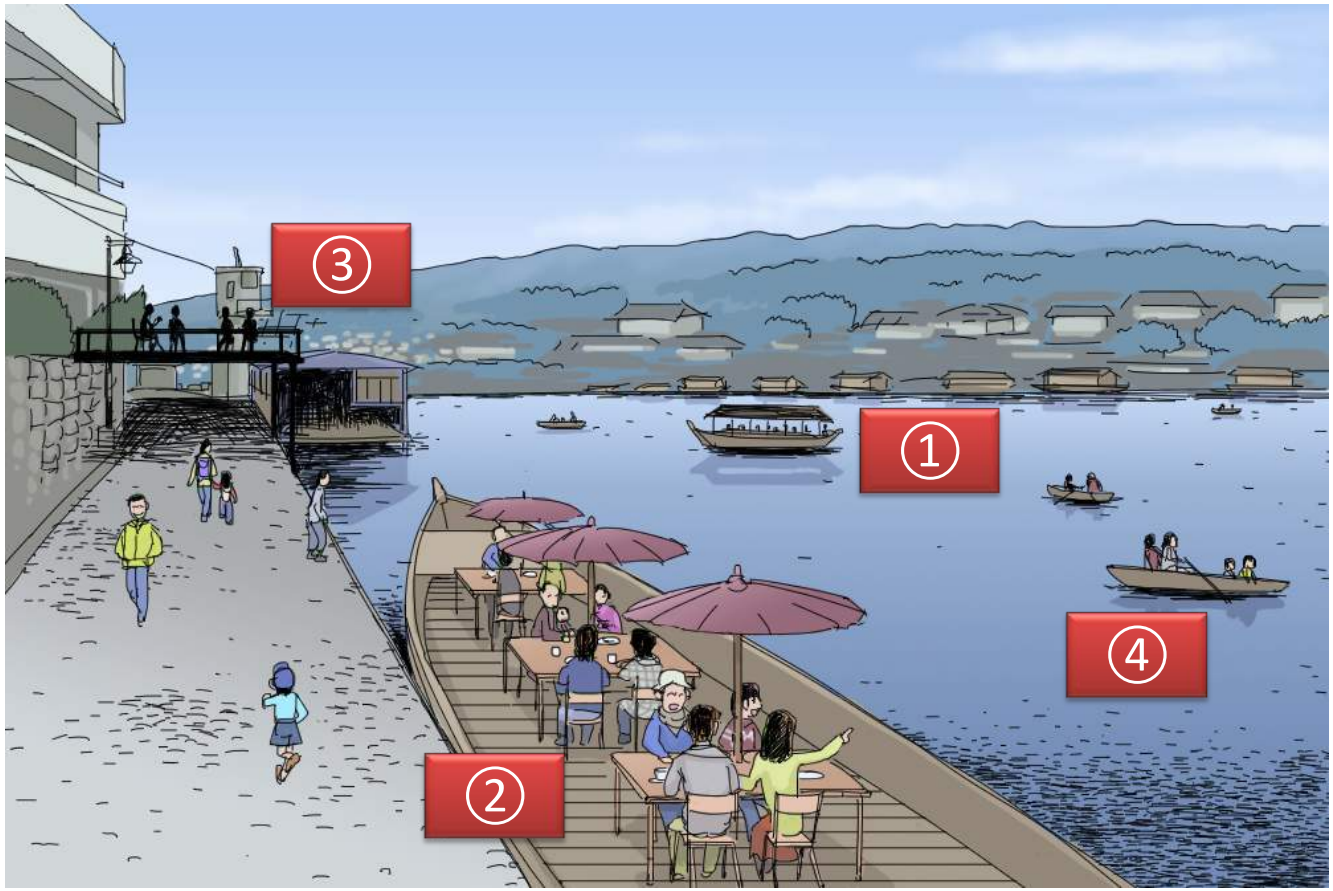
今から始める三隈川再生

三隈川再生に関わる提案書

平成２７年３月

三隈川再生プロジェクト**策定委員会**

多様な河川利用と周辺部の整備



①遊船の魅力向上と有効活用

遊船を昼間にも運行し気軽に船遊びが楽しめるようにする。鵜飼を中心に、和楽器や踊りなどのコンテンツも充実させる。また、中之島から旅館街への渡し舟としても活用する。

②船カフェの設置

船着き場に屋形船などを活用した船や土産物店、出店などを設置。観光客の休憩スペースとしても活用するほか、付近住民の散策のオアシスとしても活用する。
船になっているので川の中を移動も可能。

③旅館と連携した川床設置

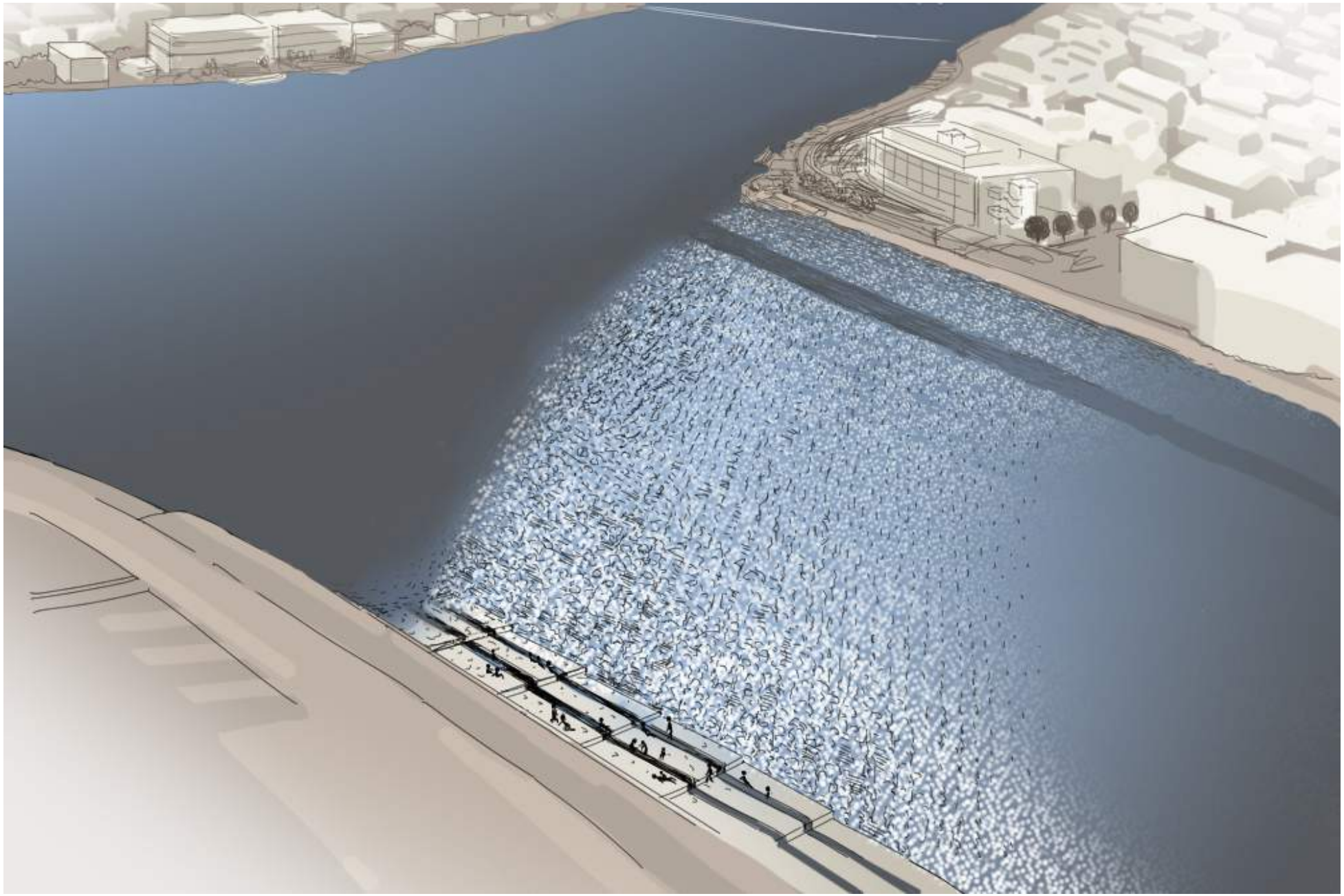
既存旅館と連携し、河川にせり出した川床を設置、新しい観光の目玉とする。遊歩道は消防道路となっていることも考慮し幅や高さを設定。川床の日陰を利用し、休憩スペースとしても活用できる。

④手漕ぎボートの復活

手漕ぎの貸ボート場を復活させて、観光客や市民が寄り身近に川を感じることができるようにする。
ボートやカヌー教室も開催する。

湛水域の水の景観（水質）改善をする

湛水域の水の景観（水質）改善をする



要望５　夜明ダム地点での魚類回遊対策

① 鮎やウナギなど魚類の回遊（遡上、下り）に有効な魚道設置を目的とした夜明けダム改修の検討実施

市民が行う省エネ、
清流復活の環境保全行動

①　市民、事業者が行う環境行動の増進

1．炊事・洗濯などのとき

①節水に努めましょう。
②廃油は、排水口に流さずに有効利用しましょう。
③米のとぎ汁は、植物のまき水、食器洗い、野菜のあく抜き等に利用しましょう。
④効率的に適量を調理しましょう。
⑤洗濯に風呂の残り湯を使いましょう。
⑥食器洗い・洗濯・洗髪・洗車等は洗剤を使いすぎないようにしましょう。
⑦合成洗剤より石鹸を使いましょう。

2．電気を使うとき

①節電に努めるとともに、待機電力を消費する電化製品は主電源を切るかコンセントを抜きましょう。
②エアコンは除湿機能をうまく活用し、夏は28℃、冬は20℃を目安に設定しましょう。また、エアコンのフィルターはこまめに掃除しましょう。

3．ごみを出すとき

①市が毎年配布するごみ分別表（家庭ごみの分け方・出し方）をよく読んでからごみを出しましょう。

①　汚水処理をされずに水路に流れ出る洗濯排水

②　三隈川の泡

◉主催:水郷ひた再生委員会・日田市 ◉後援:日田市教育委員会・NPO法人おおいた水フォーラム
◉協力:NPO法人ひた水環境ネットワークセンター・未来へつなごう!豊かな環境上流ネット・KCVコミュニケーションズ(株)

私たちは「水郷ひた清流復活」を応援します。

【賛同団体一覧】

日田市議会
日田市自治会連合会
日田商工会議所
日田市観光協会
日田納税法人会
日田市老人クラブ連合会
日田市女性団体連絡協議会
日田市連合育友会
日田市公民館運営事業団
日田市医師会
日田歯科医師会
日田薬剤師会
日田理容師会
日田美容組合
日田清掃協同組合
日田市土地改良区
大分県農業協同組合中西部(日田)事業部
日田漁業組合
ひた森林施業者の会
日田市森林組合
日田郡森林組合
日田地区原木市場協同組合
日田木材協同組合
日田家具工芸協同組合
大分県林業経営者協会
日田林会
大分県建設業協会日田支部
日田市中小建設業協同組合
日田市管工事協同組合
日田電気工事業工業組合
日田砂利事業協同組合
日田建設工業会
日田中部生産森林組合
日田家畜組合
日田乳牛組合
大分県トラック協会西部支部日田分会
大分県水処理事業協同組合日田支部
日田緑化造園業組合
日田浄化槽協同組合
大分県宅地建物取引業協会日田支部
大分県建築士会日田支部
大分県建築士事務所協会日田支部
大分県司法書士会日田支部
大分県土地家屋調査士会日田支部
大分県公共嘱託登記協会日田地区
日田市工業連合会
日田木工業連合協議会
日田家具工業会
大分日田げた組合
日田工芸振興会
大分県印刷工業組合日田支部
日田祇園山鉾振興会
日田市商店街連合会
日田温泉旅館組合
日田飲食業協同組合
日田市郵便局長会
日田交通安全協会
日田電子工業組合
大分県建具畳工業組合日田支部
日田小売酒販組合
日田米穀協同組合
大分県石油商業組合日田支部
日田地区LPガス協議会
日田旅館協同組合
日田エルピーガス協同組合
日田地区自家用自動車協会
大分県自動車整備振興会日田支部
日田市タクシー協議会
日田市立小中学校校長会
日田市立小中学校教頭会
地方自治政策研究会九州地方本部大分県西部地区会
自治労日田市職員労働組合
大分県教職員組合日田支部
部落解放同盟大分県連合会日田西部支部
部落解放同盟大分県連合会日田豆田支部
日田ライオンズクラブ
日田すいきょうライオンズクラブ
日田中央ロータリークラブ
日田ロータリークラブ
国際ソロプチミスト日田
日田商工会議所女性会
日田商工会議所青年部
日田青年会議所
ストリームひた
ひたまちづくり研究所
筑後川まるごと博物館
洗剤公害をなくす会
いづの倶楽部
あまがせ自治会
日田地域温暖化防止協議会
日田市民セミナー
水郷自然塾
日田自然愛好会
三隈川清流をもどす会
日田の自然調査会
高瀬川の清流を取り戻す会
日田市民環境会議 ゴミリサイクル・情報部会
日田市民環境会議 水と森部会
日田市民環境会議 省資源及びエネルギー部会
日田の川を考える会
日田の棚田を守る会
筑後川上流倶楽部
初山森林植物園ネットワーク
森と水の共生ネットワーク
下筌ダム湖と森の会
大山水環境アスリート
ひたちも会
メサと諫回め
坂の町づくりを考える会
木材の森を守るネットワーク
筑紫の水だめ
日田ほたる広場
日田移住サポートセンター
My Town寺's 倶楽部
あーとら ねっとら あまがせ会
あまがえる
あまがせ温泉まちづくり協議会
いでぐちやん里
おおつる井の会
かあちゃんの味ひいな製造協議会
げんきby吉井
しらく吉野プロジェクト
そらの会
たかはし.net
なかべら花の里づくり協議会
ベジフルさんす
まちそだて交流機構日田ラボ
もりもり元気な里山づくり隊
ヤブクグリ
東日田かたらん会
街づくりグループ日田プレイス
月出山まちづくり委員会
小鹿田グリーンツーリズム研究会
小竹サポーターズ
小野谷シティーズ
松原ダム湖周辺活性化推進協議会
上津江生活研究グループ
千年あかり実行委員会
前津江シャカダケッツ
大つる郷振興会女性部リイヤ会
大山町植樹ボランティアの会
大明まちづくり協議会
大分県歯科衛生士会(日田)
大野楽保存会
大野歌舞伎
筑後川の源流を守る会
天瀬グリーンツーリズム研究会
天瀬町生活研究グループ
大分日田茶振興会
日田ソーシャルビジネス研究会
日田を元気にする27日の会
日田地域史保存文化会
日田林業500年を考える会
梨栗の花実行委員会
本町7丁目リンクプロジェクト
夜明桜守の会
夜明三日月サークル
ひた水環境ネットワークセンター

(順不同・法人の種類省略)

2016水郷ひた清流復活市民大会　H28.11.15

2016水郷ひた清流復活市民大会

H28.11.15

2016水郷ひた清流復活市民大会

2016水郷ひた清流復活市民大会

H28.11.15

平成28年12月　協議結果

要望1	大山川の水量増加	水質、環境改善のため、年3150万m3（平均 毎秒1m^3）の水量を上乗せ放流し、川の流量に変化を与える。（九州電力）
要望2	大山川の水質改善対策	
要望3	高瀬川の水質改善対策	清流バイパスの建設（大分県・日田市）
要望4	三隈川隈裏湛水域の水質改善および利用活性化対策	平成30年度から実施予定、現在筑波で模型実験中（国土交通省）
市民		市民による省エネ、環境対策、河川利用活性化　の啓発、実行、協働

残された主な要望

要望５

夜明ダム地点での魚類回遊対策

その他の課題

森林の適正な整備保全　　ほか

筑後川上流の水事情
（水郷ひたの清流復活をめざして）

NPO法人　ひた水環境ネットワークセンター

① 水郷ひた
② （1988～　）日田の水環境問題と市民活動
③ （1998～2002）水量増加運動
④ （2007～　） 水郷ひた清流復活運動

NPO法人有明海再生機構
筑後川・有明海水共同域を考える市民講座
H29.6.17
エルガーラオフィスビル6F　久留米大学福岡サテライト